



1



2



▲壁面を飾る力神像

3



4



# 八代神社本殿

## 保存修理工事進む

「妙見さん」の呼び名で親しまれている八代神社（妙見宮）は、昭和38年に県の重要文化財に指定されています。近年、地盤沈下や雨漏り、シロアリ被害などで建物の歪みや傷みが目立ってきたことから、2016年の妙見神渡来1350年の記念事業として、解体修理が行われることになりました。

文化財としての価値を損なわないように、文化財建造物修理の専門業者が施工にあたり、解体する部材にはすべて番号を付けて、手作業で慎重に解体が行われています。解体作業によって、屋根を支える柱や梁の傷み具合が確認されるとともに、江戸時代の年号や人名の書かれた部材や彫刻から、今まで知られていない修理の経過が発見されています。

使える部分は残し、傷みが激しく使えなくなった部分は同質の部材で補うなどの方法で修復されていきます。

1 銅板と野地板(のじいた)をとりはずすと、屋根裏の部材が見えてきます 2 他の用途の部材が垂木(たるき)として転用されていることが、釘の位置や加工痕から分かります 3 力神像の裏面には「長四郎作之」と、製作にかかわった人名が書かれています 4 垂木の先端を覆う銅板の裏面。享保九年(1724)の文字が記されており、これまでの記録では知られていない修理であることが分かりました 5 屋根の造りと残された檜皮(黒い部分)から、銅板葺になる前は檜皮葺(ひわだぶき)であったことが分かります 6 千鳥破風に飾られた鶴の彫刻。長年の風雨で傷んでいます

お願い  
復元する本殿の色彩の参考とするため、昭和30〜40年代の本殿のカラー写真を所持している場合は、情報提供をお願いします。  
文化まちづくり課  
☎3345mm



5



6